

令和4年度 山形城北高等学校 修了式 式辞（令和4年3月24日）

2月、3月は慌ただしく、気がつく今日は今年度最後の登校日となりました。3年生が卒業したこともあり、なんとなく寂しく、新入生の入学が待ち望まれるところですが、2週間あまり経つと、今年も362名という大変たくさんの新入生が入学します。学校全体では、久しぶりに1,000人を超えることになり、これも在校生の皆さんの様々な活躍があつてのことと感謝します。

さて、本日の修了式の式辞は、①卒業式 ②地震 ③コロナ の3つです。

まず初めに卒業式についてですが、感染拡大防止ということで、在校生は生徒会長のみ、保護者は1名という制限の中で行われました。私はこれまで30数回卒業式に出ているのですが、その中でも一、二を争うほど感動した卒業式でした。それは取りも直さず、コロナ禍で青春時代を過ごした卒業生の思いが詰まった式だったからだろうと思います。皆さんには、後ほど、生徒会長 加藤君の送辞と、卒業生を代表して加藤颯涼君が述べた答辞を読んでもいただきます。

私の式辞はHPに載せているので、そちらで読んでほしいのですが、一昨年コロナで学校生活に不自由しているとき、あいみよんのマリーゴールドの話をしたとか、城北祭では愛猫サスケの話をしたとか、そんなことを思い出して、式辞の結びは次のような言葉を述べました。

歌手の あいみよんが DISH に提供した「猫」という楽曲の歌詞に、
いつかフラッと現れてくれ／何気ない毎日を君色に染めておくれよ
いつか君がフラッと現れて／僕はまた、幸せで

という一節があります。本校は私立学校で、みなさんがいつフラッと現れても、学校は変わらぬ姿のままで、ここにいます。先生たちも、できるだけ若さを保ちながら、いつもここにいます。これからの長い人生、人を敬い、人を愛し、人を信じて、力強く生きてください。そして、猫のようにフラッと顔を見せて…幸せをください。

皆さんはあまり意識していないかもしれませんが、私立学校の特長は人事異動がほとんどなく、学校に来ると先生方が変わらずにいるということです。

2つ目は地震の話です。16日の深夜、福島県沖を震源とする大きな地震が発生しました。11年前の東日本大震災が起こった時、皆さんは5歳か6歳で、その頃の記憶というのは薄らいでいるのかもしれませんが。当時は目を覆いたくなるような映像が繰り返し流れていましたが、それを目にする機会も随分減ってきました。今回の地震では、さくら連絡網で安否確認を行いました。次の日には全員の安全が確認できました。

LINEは東日本大震災のあと、災害時に電話は繋がりにくいということで開発されたSNSです。本当に便利になりました。昨年が震災後10年ということで、去年の卒業式の式辞は「命の授業」と題して東日本大震災の話をしたのですが、その後半部分だけ紹介したいと思います。

今後30年間の発生確率が約7割という首都直下型地震は、死者の数は最大で一万人と予想されています。もっと深刻なのは南海トラフ巨大地震で、最悪の場合、死者数は32万人ですから、東日本大震災の16倍になります。30年以内の発生確率は7割～8割とされ、地震発生後「数分」でやってくる津波が大きな被害を及ぼすと言われています。

この2つの地震については、若い皆さんが経験する確率はきわめて高いわけです。東京では直下型地震を想定し、学校に寝泊まりする訓練を行っていますし、西日本では数万人、数十万人が参加する避難訓練が行われています。山形に生まれ育ったばかりに防災意識を十分に持たないまま、進学や就職、あるいは転勤や結婚などで、全国あちこちに住むことになる人も出てくるはずです。地震に限ったことではないのですが、自分の命は自分で守るという意識と、噂に惑わされず、自分で判断し行動する力を身につけてほしいと思います。

それでは、春休みを事故なく過ごし、4月7日の始業式、元気にお会いしましょう。